



## 接待茶屋

箱根山中における接待の歴史は古いが、創始は江戸時代中期の箱根山金剛院別荘が、箱根山を往来する者の苦難を救うたの、人や馬に粥や飼料、焚き火を無料で行したと伝えられている。この接待所も一時途絶え、ついだ文政七年（一八二四）、江戸の豪商加勢屋が再興したが、これも明治維新とともに中断してしまった。



やがて明治十二年（一八七九）、八石性理教会によって接待茶屋は再スタートしたが、教会の衰退とともに鈴木家に引き継がれ、村喜三郎・とめ、力之助、万太郎・とよらの三代により接待が続けられた。鈴木家は、昭和四十五年（一九七〇）に茶室を譲り、接待茶屋の歴史に終止符を打つまでの約九十年間、箱根を往来する人馬の救済にあたったのである。

箱根の接待茶屋については、「山中接待所」や「茶屋」などさまざまな呼称がある。「廣島通交路此器水見地行平徳之用」の銘がある著名な茶室や、「せつたい處」「せつたい茶屋」の看板とともに、地行奉仕の跡をしのぶ遺跡として本遺跡は貴重である。

出典：接待茶屋遺跡発掘調査報告書（一九九六年） 序文より

平成十七年十二月





竹風飄簾



三島安房守  
石